

施設だより愛の園

第24号
2018/7

土砂崩れの試練と学び

与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。…その土台とはイエス・キリストです。

(コリント人への手紙第一 三章一〇—一一節)



社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会
愛の園 統括園長 信川恒夫

最近では異常気象の影響で、集中豪雨と言われるような大雨の降ることが多くなりました。それも、「これまで経験したことのないような」という言葉が付いています。そのために、これまでは何の問題もなかった所の地盤がゆるみ、洪水や土砂崩れなどが起き、家が押し流される被害が多発しています。

愛の園も阪神大震災以来、災害と言われる経験は無かったです。この七月五日から降り続いた豪雨により、隣接地の法面が崩壊し、建物の一部に被害が出ました。幸い人的被害はありませんでしたが、建物の壁の一部が土砂に埋まりました。雨の中で職員が土嚢作りをし、ブルーシートを掛け、一階の窓の外側に木製の板を設置するなど、てきぱきとした対応をとってくださったお蔭で、この程度の被害でおさまりました。

今回の災害を通じて、あらためて豪雨災害の恐ろしさを知り、災害に対する事前準備の大切さを学びました。愛の園の災害対応マニュアルは、職員皆で考え整理したものです。今回もそのマニュアルに沿って対応しましたが、実践を通して、多くのことを学ばせていただきました。この経験を反映した新しい災害対応マニュアルを早期に作り上げたいと思っています。



崩壊した裏の法面(のりめん)に掛けられたブルーシート



押し寄せた土砂により被害を受けた建物の状況

さて、イエス様は、次のようなたとえ話をされました。地面を深く掘って、岩の上に土台を据えてから家を建てた人と、砂の上に土台なしで家を建てた人の話です。そこへ大雨が降り、洪水が押し寄せて来ました。砂の上に土台なしで建てられた家は、ひとたまりもなく倒れてしまいました。しかし、岩の上に土台を据えて建てられた家は、びくともしませんでした。

建物の見える部分は具合が悪くなれば、修理・改修して、新しくすることが出来ます。しかし、基礎部分に問題があると、一度壊して新たに建て直さなければいけません。このたとえ話の建物は私たちの人生そのものです。私たちは何を土台にして、人生を歩んでいるでしょうか。時代と共に移り変わる世の中の常識や知恵ですか？それとも、決して変わることはない聖書のことばですか？

愛の園の理念は「自分を愛するようになり、あなたの隣人を愛しなさい。」という聖書のことばです。私たちは見えるものではなく、見えないものを大切にして、介護をさせていただいています。愛の園の建物は杭の上に固く建っています。そこで働く私たち愛の園の職員は、これからも変わることのない理念に基づいてサービスを提供していきますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。